ふたたび反原子力声明
美浜原発２号機の事故に直面して

ソ連チェルノブイリ原発惨事を経験して，私たち日本バプテスト連盟は第４２回年次総会において「反原子力声明ー生命と愛と平和と希望を求めて」を特別に決議したが，その声明には次のように述べている。

「・・・・私たちは原発と核に基づく文明が，破壊と死に至る道であることを知り，日本の原発推進の現場に深く憂慮を表明し，警告と共に，原発と核のない社会，すなわち脱原子力を目指し，いまや生命と愛と平和，そして希望への道を求めることが，私たちのみならず，すべての人々の緊急で重大な課題であることを強く訴えるものである。」

ところが，去る２月９日午後，福井県三方郡美浜町の美浜原発２号機（加圧水型軽水炉・出力５０万キロワット）の１次冷却水が流出し，日本で初めて緊急炉心冷却装置（ＥＣＣＳ）が働き，かろうじて「炉心溶融（メルトダウン）」と言われる大事故を免れ，内外に測り知れない衝撃を与えつつある。この事故の恐ろしさについては，さらに綿密な調査に待たねばならないが，とりあえず次のことが指摘されている。

第一は，蒸気発生機内の細管が単なる「破損」程度ではなく，「破断」によって１次冷却水の大量の喪失事故が起こったことが判明した。これは明らかに大事故につながるものであった。

第二は，同型の大飯原発１号機，高浜原発２号機，玄海原発１号機のように過去に事故歴の多い原発で今回の事故が起こったのではなく，過去に比較的に事故歴の少ない，いわば原発の「優等生」であった美浜原発２号機でこのような事故が起こったことが内外の専門家に大きな衝撃を与えている。なぜならば，今後は「事故歴」いかんにかかわらず同型のどの原発でも大惨事につながる同種の事故が起こる可能性がもはや否定できなくなったからである。

第三は，今回は緊急炉心冷却装置（ＥＣＣＳ）が働いたが，これまでに例があったように万一破損その他の理由で働かなかったり，タイミングが遅れた場合は，米国スリーマイル島原発事故のように「メルトダウン」になる可能性があった。

第四は，スリーマイル島原発事故が起こったときは，日本の加圧水型原発はすべて運転を停止して点検をしたのに，今回はそのような措置を講じていないのは問題である。

いずれにしても，今回の事故は一歩間違えば大事故につながるものであり，土俵際でかろうじて惨事を免れたが，「安全神話」はどのような意味でも最早とりつくろえないことが明らかになったのである。

私たちは主イエス・キリストによって，天地を創造し歴史を支配したもう神の「神のかたち」に

造られた人間の生命の尊厳と共に，「神の被造物」として自然のかけがえのなさを知らされた者として，以下のことを緊急に強く求めるものである。

1. 加圧水型原発の即時停止ばかりでなく，すべての原発を廃棄して，原発のない社会を一日も早く実現すること。
2. そのために，省資源・省エネルギーの産業構造に転換するばかりでなく，私たちも使い捨ての文明や浪費のライフスタイルや暮しのありようを改めていくこと。

１９９１年２月２１日

日本バプテスト連盟第４３回定期総会